

すべての人が主役になれる社会づくりへ

# Innovation for Everyone 2020



2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた科学技術イノベーションの取組に関するタスクフォース

# プロローグ

人口急減・少子高齢化・地方衰退・経済停滞など、日本国内にはさまざまな社会課題が山積している。「課題先進国」である日本が、どのようにこれらの課題を乗り越えていくのか？新しい社会・新しい豊かさを、世界にどのように提示することができるのか？それが試されている段階にあるといえる。

それらを見据え、2014年6月、科学技術イノベーション総合戦略2014・経済財政運営と改革の基本方針2014が閣議決定された。また「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた科学技術イノベーションの取組に関するタスクフォース」が立ち上がり、あらゆるジャンルの有識者の方々の参画により、これまでさまざまな議論がなされてきた。

「オールジャパンによる科学技術の成果を活かした地域経済への貢献」、「先端技術を体験・情報収集し、交流が図れる場の提供」、「世界の競争に勝つためのシステム化の強化」、「障害者や高齢者が快適に暮らせるユニバーサルシティの構築・世界への普及」、「ビッグデータを活用したシステム改革による渋滞問題解決」、「日本の技術や取組の訴求力を高めるコミュニケーション能力・情報発信」などあらゆる切り口において提言され、その可能性が模索されている。

## 1964年大会は、日本を変えた。2020年大会は、世界を変える。

大会に向けて世界にアピールできる科学技術イノベーションの成果を、オールジャパンで作り上げ日本から生まれた科学技術イノベーションが、世界中の暮らしの質を高め世界中の課題を具体的に解決していくことを目指していく。

# 基本理念

## 基本理念

科学技術イノベーションで世界を大きく前進させる。

- 成長の好循環につなげる
- 大会と連携して世界の英知も引き寄せつつ日本発のイノベーションを誇示する場とする

## 基本理念達成の3つの手段

大会に向けた科学技術イノベーションの取組の基本理念を達成するために、以下の3つの手段を常に意識する

### [発信]

広く世界へ向けた発信

**ソーシャルインパクト**

地球規模での課題解決に向けた、  
世界の最先端科学技術による  
イノベーション

### [実証]

選手、観客の  
安全・快適の実現

**大会ホスピタリティ  
(おもてなし)**

地球環境とともに、大会に関  
わるすべての人々の安全・快  
適を思いはかった大会運営

### [実装]

レガシーとしての  
地域社会システム整備

**シェアード・バリュー  
(CSV)**

社会課題の解決に向け、  
技術、産業、地域間が連携した、  
オールジャパンの価値共創

## 基本的な取組の柱

「快適・環境・安全」を3つの柱とした取組

- ・ 競技や観戦、観光を“**快適**”に楽しむためのサポート
- ・ “**環境**”への負荷を軽減したクリーンな大会の実現
- ・ 選手・観客・来訪者の“**安全**”性の確保

# 科学技術イノベーションで世界を大きく前進させる9つのプロジェクト

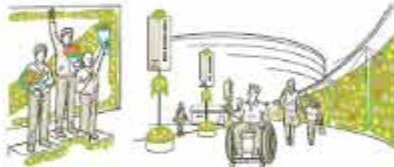
快速 環境 安全



Hospitality Innovation 2020

## スマートホスピタリティ

海外からの来訪者に、移動や会話に伴うストレスのない、やさしい誘導を



Flower Innovation 2020

## ジャパンフラワープロジェクト

最先端技術を活用し、夏でも多くの国産の花で街に彩りを



Global Movie Experience Innovation 2020

## 新・臨場体験映像システム

臨場感あふれる映像技術が生み出す「ワクワク」を、世界中の人と一緒に



Disease Information Innovation 2020

## 感染症サーベイランス強化

感染症の発生をすばやく察知・公開し、健康的な暮らしを守る



Big data & Sensing Innovation 2020

## 移動最適化システム

ビッグデータでヒトの流れをスムーズにし、安全で快適なおもてなしを



New Accessibility Innovation 2020

## 社会参加アシストシステム

障がい者・高齢者が普通に社会参加するシステム



Mobility Innovation 2020

## 次世代都市交通システム

すべての人に優しく、使いやすい移動手段を



Energy Innovation 2020

## 水素エネルギーシステム

水しか排出しない最新エネルギーで、移動・暮らしに次のクリーンを



Weather forecast Innovation 2020

## ゲリラ豪雨・竜巻事前予測

ゲリラ豪雨が降りだす前に、人々へお知らせ

# 各プロジェクトにおける訴求ポイント

プロジェクト	社会にとってのメリット・訴求ポイント	各プロジェクトが持つ主要技術
PJ1 スマート ホスピタリティ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 海外からの来訪者ともストレスフリーなコミュニケーションを実現し、インバウンド観光の促進にもつなげる</li> <li>2. 通信機器及び測位技術やロボットなどの技術が、さりげなく移動や会話をアシストする社会を実現</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多言語音声翻訳システム</li> <li>2. 準天頂衛星や屋内測位技術を活用した高精度測位技術</li> <li>3. 顧客の購入品・移動履歴等からサービス向上に資するデータを地域で共有できるプラットフォーム</li> <li>4. ロボット技術</li> </ol>
PJ2 感染症サーベイ ランス強化	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「感染症(Infectious Disease)」への確固たる対応</li> <li>2. 水際から国民までのインフォメーションチェーンが重要</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昆虫媒介性ウイルス感染症に対する総合的対策に関する研究</li> <li>2. 感染症の診断機能向上のための研究</li> </ol>
PJ3 社会参加 アシストシステム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学技術により障害者、高齢者の社会参加を促進</li> <li>2. 障害者、高齢者の「心身のバリアフリー」を目指す</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 移動・機能支援</li> <li>2. 競技支援(障害者、高齢者の移動・機能支援活用も含む)</li> <li>3. コミュニケーション支援</li> </ol>
PJ4 次世代都市交通 システム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. すべての人に優しく、使いやすい移動手段の提供</li> <li>2. 安心・安全 / ストレスフリーを目指す</li> <li>3. モビリティ単体だけでない都市システムとの融合</li> <li>4. パッケージ化による地方や海外への展開</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自動走行(正着)制御(自動幅寄せと車高調整)</li> <li>2. PTPS高度化(公共車両優先システム)</li> <li>3. C-ACC(車車間通信)・路車間通信を利用したART車両の制御</li> <li>4. ARTシステム統合化</li> </ol>
PJ5 水素エネルギー システム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 水素製造～輸送～使用まで、全てにおいてグリーンを目指す</li> <li>2. CO<sub>2</sub>フリー水素バリューチェーン</li> <li>3. 九州・東北・北海道等、再生可能エネルギー発電の買電飽和地域での水素製造</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 再生可能エネルギー由来水素製造技術開発</li> <li>2. エネルギーキャリア(アンモニア・有機ハイドライド)技術開発</li> <li>3. アンモニア直接利用燃料電池技術開発</li> <li>4. アンモニア直接利用タービン発電技術開発</li> </ol>
PJ6 ゲリラ豪雨・竜巻 事前予測	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気象予測システムの高度化</li> <li>2. ゲリラ豪雨等の極端気象を事前にピンポイント予測</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マルチパラメータフェーズドアレイレーダ等の開発・活用による豪雨・竜巻予測情報の高度化と利活用に関する研究</li> <li>2. 水災害に対する観測・分析・予測技術の開発及び導入等</li> </ol>
PJ7 移動最適化 システム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレスフリーな見守りへ</li> <li>2. 人流・人員配置の最適化(効率化)</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 見守りや人流・人員配置の最適化(効率化)の実現のためのデータ処理・分析・セキュリティ技術</li> <li>2. データを集約・利活用するプラットフォームの実現のためのデータ蓄積・高速データ処理・セキュリティ・低消費電力デバイス技術</li> </ol>
PJ8 新・臨場体験 映像システム	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手軽に時間と空間を超えてスポーツの感動を世界と共有</li> <li>2. 世界のどこでも、まるでその場にいるかのような臨場感が体験可能に</li> <li>3. 遠隔教育・遠隔医療などへの応用</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 距離の壁を超える空間映像技術</li> <li>2. 革新的な映像表示を可能とする次世代デバイス技術開発</li> </ol>
PJ9 ジャパンフラワー プロジェクト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安定供給 / 日持ちのよさの向上</li> <li>2. 国際競争力の向上</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栽培環境制御による夏場における花きの安定生産技術</li> <li>2. 切り花の日持ち性向上技術</li> </ol>

# 発信の基本的な考え方

大会に向けた科学技術イノベーションの取組をより社会に浸透させるため、以下の3つの軸で効果的な訴求を行う。

## (1) 国内情報発信

メディア等への情報発信を定期的に行い、認知度アップ・話題性を喚起プロジェクトを民間企業に働きかけ、研究開発や大会での活用を促進



## (2) 体験の場づくり

会場隣接の日本科学未来館や全国の科学館、様々な人が集まり楽しむ場を活用・連携し、体験や情報収集を通じて、理解を深める場や機会づくりを促進



## (3) 海外情報発信

国際会議や海外展示会などの機会を活用し、海外へのPRを促進  
大会期間を通じて、来訪者・諸外国に対するPRを最大化



写真はイメージです。

- ・様々なチャネルから日本発の科学技術イノベーションを発信し、開発した技術が大会後もレガシーとして社会に貢献することを促進
- ・最新の科学技術が、課題を解決した未来の新しい社会を実現させることを提示・発信し、我が国の産業の世界展開や海外企業の対日投資を喚起し、日本の経済成長を強力に推進

# Innovation for Everyone 2020

すべての人が主役になれる社会づくりへ

競技や観戦に、より高いレベルの安全と快適を。

人のぬくもりある最先端テクノロジーで、選手や観客、来訪者にあたためたおもてなしを。

環境への負荷を極限まで軽減した、クリーンなエネルギーを。

そして、子供から高齢者、障害者や外国の方々まで、

あらゆる人がより前向きに暮らし、すべての地域が活力にあふれる

新しい社会・新しい豊かさの実現を。

オールジャパンだからこそ実現できる価値共創と

人が主役となるイノベーションで、

大会の姿を変え、次の世代へ受け継がれるレガシーを創る。

暮らしの質を高め、一人でも多くの人々の社会参画を支え、世界の課題へ具体的に応えていく。

2020年に向けて、そのひとつひとつをカタチにしていく。

# 情報発信：ロードマップイメージ

2015年

2月

3月

4月～

大会前の機運醸成期

2020年

8月

大会終了後

国内情報発信

②体験の場づくり

海外情報発信

タスクフォース

メディア等への情報発信を定期的に行い、  
認知度アップ・話題性を喚起

プロジェクトを民間企業に働きかけ、  
研究開発や大会での活用を促進

各プロジェクトの  
技術開発推進～  
具現化

会場隣接の日本科学未来館や全国の科学館、  
様々な人が集まり楽しむ場を活用・連携し、体  
験や情報収集を通じて、理解を深める場や機  
会づくりを促進

国際会議や海外  
展示会などの機会  
を活用し、海外へ  
のPRを促進

東京大会  
オリンピック・パラリンピック

大会期間を  
通じて、来  
訪者・海外  
に対するPR  
を最大化

レガシー化



# Innovation for Everyone 2020

